

第1回越前おおの型 食・農業・農村ビジョン推進委員会
及び大野市食育推進会議 議事録

令和8年8月28日(金) 午前10時~11時50分

市役所 第1・2会議室

出席者 推進委員9名（欠席 2名）
事務局 4名

○開会 委員長あいさつ

本日は、推進委員会にお集まりいただきありがとうございます。

先日、石川・富山の豪雨があり、場所によっては甚大な被害がもたらされています。本県においても、坂井地区で被災された方がいるということでお見舞いを申し上げます。

さて、奥越地区の米の作付けにおいては、概ねハナエチゼンや五百万石など例年通りとなっています。JAのカントリーへの集荷も終了したところで、これからはコシヒカリの刈り取りや集荷が始まります。

また、8月13日には今年度のJA福井県の概算金がコシヒカリで1俵17,000円、ハナエチゼンで16,000円と発表されました。玄米のコスト指標価格20,535円には及びませんが、JA福井県としては精一杯の価格で、今後少しでも価格が上がるように取り組みたいと考えています。

本日は、大野市の大事な農業ビジョンを策定する会議になりますので、委員各位のご意見をお願いします。

○議題

（1）ビジョンの取組状況について

事務局より、資料1により説明、質疑応答は次のとおり

委員 産直の会の加入数は、少しずつ減少しています。大野市の支援策としては、市の広報誌で掲載されていますが、昨日に問い合わせが1件あっただけで、何かもう少しPRをできる場を設ける必要があるのではないのでしょうか。具体的には、大野市では主に大規模に向けた施策に取り組んでいますが、産直の会では小規模の農家がターゲットで、小規模農家に対して出荷先に産直の会があるなど、トータル的な説明会を開催するなど、そのような支援はできないのでしょうか。それらをビジョンの中に盛り込んでいただきたいと思います。

出荷先には、産直の会やJA、農林楽舎などがありますが、産直の会においては、農林楽舎は1事業者になります。ビジョンの素案には、農林楽舎だけの項目があります。書き方に少し違和感があり、産直の会の項目も書いていただきたいと思います。

また、産直の会では、昨日も役員会を開催していて、今後、中部縦貫自動車道が開

通する際には、どのように盛り上げていこうかなど話し合っています。産直の会の出荷先は4ヵ所あって、それらの取り合いになっていて、出荷先の振り分けや商品出荷の見極めなどについて悩んでいます。

今後は、高齢化により出荷量は減少してくると考えていますが、それをどのように上手に振り分けていくかなども考えながら、市でも産直の会の加入促進の施策に取り組んでいただきたいと思います。

事務局 産直の会の加入促進については、今後も積極的に取り組みたいと考えています。新たな農業ビジョンでも加入促進に取り組んでいくことを記載し、産直の会と一緒に施策に取り組めます。

委 員 これから秋のイベントなどがありますので、そこで広報を行うなど少しずつ進めていければと思っています。よろしくお願いします。

委員長 次の議題にも出てくると思いますが、市としても積極的に取り組んでいただきたい。

（２）農業・食育に関する新たな計画（素案）について

事務局より、資料２・３、及び当日配布資料３（変更後）・４・５により説明、質疑応答は次のとおり

委 員 素案の第１章でグラフの記載がありますが、ほとんど減少しているグラフを掲載しており、農業をマイナスの印象で捉えることになります。マイナスのグラフだけでなく、もう少し頑張っているプラスになっているグラフの掲載が必要だと思っています。例えば、農産物の出荷高など、大野市の農業者が頑張っているグラフを、未来志向型のグラフの一つ入れていただきたい。これではあまりにも寂しいと感じていますので、１０年後は大野市の農業が恐ろしいことになるのではないかと感じてしまいますので、グラフの変更を考えてください。

担い手農家の高齢化が進む中で、新たに支援を行って後継者を確保するということは分かりますが、コンバインで約２，６００万円掛かりますが、大野市ではそれにどのくらいの支援を行っているのでしょうか。そもそもお米に支援金はありません。基本的には、麦やソバなどの水田活用で支援がありますが、お米にはありません。私は、乾燥機を１，０００万円で購入しましたが、市の支援はありませんでした。

また、過去に中古の農機具への支援についても市と話し合いを行いました。中古品への補助は減価償却が終了する前の農機具への補助はありますが、償却後の農機具への補助に対しての支援はありませんでした。償却前の農機具も高額になりますので、なかなか購入することは難しく、償却後の農機具に対しての大野市独自の補助制度を設けてもいいのではないのでしょうか。

毎年、農機具の作業時間が１００時間増えるのを見ながら、コンバイン２，６００万円、田植機１，０００万円、ドローン３００万円と多額の金額がかかる中で、市の支援がない中、お米を１俵１７，０００円で、生産に掛かった経費のマイナス２０％の価格でお米を買い取ってもらっています。農業を継続することが難しい状況になり

ます。

事務局 農機具の購入において、お米の生産に必要な機械購入に対して、市の支援がないわけではありません。補助を受ける場合には経営規模の拡大や農作業時間の削減などが必要になります。今の経営の現状維持などの場合には支援制度がないことになります。

ただし、大野市の場合には、担い手への農地集積が進んでいますので、経営規模の拡大で補助に取り組むことは困難になっています。

委 員 農地の集積率は80%を超えていますので、新規で20%の経営規模の拡大に取り組むことなどは困難になります。

また、例えばドローンの導入については、ドローンの損益分岐点は1年間で作業面積が100ha程度になりますが、100haの経営規模は困難になります。国がスマート農業、スマート農業と言っていますが、必要になるのは直進アシスト機能だけになります。そこにお金を掛けても回収することができないのではないのでしょうか。農業は、スマート農業だけではないと思っています。

事務局 現在、国、県の補助制度はポイント制となっています。経営規模の拡大を行う農業者などが高いポイントとなり、現状維持の経営だと低いポイントで補助が得られないことになります。このため、自分で機械を購入する農業者が多くいるとはお聞きしています。対策が必要とは思っています。

委 員 サトイモの目標80haに対して、令和8年度の実績は51haになっていて、約4割減少しています。大野市は、原因が何と考えているのでしょうか。原因を追究しないと、きちんと原因を追究していただきたいと思っています。

事務局 サトイモの生産面積減少の原因は、主に中小規模農家における重労働作業において、これまで作業を行ってきた60歳、70歳代の方が高齢化により作業ができず、作業者の確保も困難で、人数を掛ける作業ができなくなったことにあります。サトイモの生産においては、収穫・出荷作業における株割り作業の負担が重く、また疫病などの発生により栽培管理もこれまで以上に手間がかかり、農業者の負担が大きくなっています。作業に見合った収入が確保できないため、他の作物への生産に多くの農業者が移行しています。

効果的な施策というのは困難になりますが、現在、市、県奥越農林、JAと打合せを行っており、その中で、市だけではなく関係機関が一体となって、上庄サトイモ、越前サトイモを後世に残すための施策に取り組みたいと考えています。

委 員 サトイモの作業では、1人、2人が足りません。それを確保するために、隣の農家と協力するなど、結の気持ちで、越前おおの型農業で進めていくことが効果的だと思います。

また、一番効果的な施策は、地域で共同の集荷場や保管所を持つことが効果的だと思います。そのような施設を造ることが良いと思っています。中小規模農家に向けて、地域に1ヵ所拠点を設けて、その施設にサトイモを集めて、共同で出荷できる組織があればよく、営農組織ではなくて、もう少し緩い集まりのような組織を作っていけば良いと思っています。最終的には出荷調整に一番手間が掛かります。

委員長 意見ありがとうございます。事務局については、先ほどのグラフの修正をお願いします。

ます。

委員 道の駅の役員会では、このビジョンについて前回と何が違うのかという意見がありました。ビジョンをよく読むと違うのは違うと思いますが、大野市の声が上手に市民まで届いていないのではないのでしょうか。行政は担当者が替わるので関係性が一度リセットされます。やはり専門的な職員を、コーディネーター的な職員を1人配置した方が良いのではないのでしょうか。

委員 委員各位のご意見については、身に染みる思いで、そのご意見をしっかりと受け止めて、施策に反映していきます。

サトイモについては、本当の要因を正確に把握して、なぜ生産面積が減少しているか農家から聞き取りを行って施策に反映していかないと、今後もこの右肩下りの傾向がずっと続くと考えています。

原因としては後継者不足があります。もう一つ、これまで大野市では定年後に就農する人が多くいましたが、定年延長により、65歳や70歳で就農し農業を始めると体力が持たないということがあると思っています。里芋の収穫・出荷作業は、重労働になりますので、そういったことでサトイモの生産を止める人が多いと思っています。

サトイモの生産を上げていく、せめて維持をしていく、そのために市でもいろいろと話し合っていますが、これが最善という施策はなかなか出てきませんので、どんどん新しい施策を行いながら、これが正しいという施策を見つけるまで取り組む必要があると思っています。

また、水稻については、県やJAと協力しながら、農業者への支援を行っていきます。国の支援は地域によって違ってきますので、国や県にしっかりと、大野市の要望を行っていきます。

コーディネーターの話ですが、市では農業の専門職の職員はおりません。職員は必ず異動がありますが、配属された部署の仕事を自分の仕事として、その分野の勉強をしっかりと、どういった支援策があるのか、県、JAの助言をいただきながら、農業者の支援を行っていきます。

コーディネーターは、県、JAの普及員にお願いしながら、関係機関で役割分担をしながら、市としてどのような支援策が良いのか考えていくことが大事だと思っています。

委員長 サトイモについては、上庄と越前サトイモと分かれてはいますが、奥越のサトイモは日本一高い里芋を出荷できるようになっています。一部の集落組織からは、販売価格が上昇しており、今後も頑張りたいという声もお聴きしています。

委員 素案のグラフについては、大野市のデータばかりなので、他の産地などと比較することが必要になります。お米のグラフなら、福井県の平均値や坂井平野の数値を入れることなど、頑張っている方々に頑張っていることをきちんとデータでお示しする必要があります。

大野市は、山に囲まれていて水資源もあって、気温も他の地域に比べて、コシヒカリの生産に適した地域になります。そういったことも記載し、分かりやすく書いたほうが良いと思います。

ビジョン素案の14ページ、歯車の図がありますが、大野市の農業だけでなく、地域を支えている歯車があってもいいのではないのでしょうか。食守の振興の歯車の上に、暮らしの歯車を挿入したり、農業だけではないので、そのような図があってもいいのではないのでしょうか。

(3) その他

当日配布資料6を説明、9月18日までにさらに意見があれば、アンケートを提出していただきたいことを説明

○開会 副委員長あいさつ

委員の皆さまにおかれましては、長い時間、ご苦勞様です。担い手農家も集落営農組織もいろいろと難しい課題がありますが、これからも大野市で農業を続けていくための施策を素案に盛り込んでいただきたい。

また、今日はサトイモについて話し合ってくださいましたが、私もサトイモを生産しています。私もなかなか作業ができなくなっていますが、サトイモは大野市の特産品になりますので、少しずつでも生産してくれる農家を増やしてほしいと思っています。

今日は、ありがとうございました。